

## 特集 産学官の連携・協力の推進

巻頭言 8 一世紀の科学と産学連携

吉川弘之

座談会 10

### 産学官連携の新しい展開

出席者 小野田 武／四ツ柳隆夫／小林俊一／高橋真理子  
／司会 磯田文雄

論文 22 産学官連携推進と転換期を迎えた  
地域共同研究センター

石原 修

エッセイ 24 地方から新風を

板東久美子

事例紹介① 26 大学から産業界への技術移転システムの構築  
株式会社先端科学技術イノベーション・イノベーションセンター

事例紹介② 28 進化する産学官の連携

立命館大学

事例紹介③ 30 アメリカの産学連携

日本開発銀行

事例紹介④ 32 産学連携における  
ベンチャー・キャピタルの役割

株式会社宮崎太陽キャピタル

事例紹介⑤ 34 産学共同でシステムLSI開発・設計の  
本格的ベンチャー会社を設立

株式会社シンセシス

解説 36 大学と産業界との連携協力について

学術国際局研究助成課研究協力室

42 資料

49 産学官共同研究関連用語解説

1 記念館めぐり ●ゆかりの地を訪ねて  
棟方志功記念館 (青森県)

4 天然記念物歳時記

大杉谷

表2 名作シリーズ

聖アントニオの誘惑

表3 文化財紹介

島根県荒神谷遺跡出土品

### カラー

6 私と教育、私としつけ

キャシー中島

50 焦点—文教施策

都道府県発 ●教育・学術・文化・スポーツニュース  
福島県、長野県、岡山県、福岡県

66 科学はいま 国立極地研究所

68 現代スポーツあれこれ—トライアスロン  
行ってみよう やってみよう 国立山口徳地少年自然の家

70 海外教育ニュース

72 文学のふるさと 神通川

74 私の選んだ一冊

76 インフォメーション 杉原 正

77 鑑賞席

82 インフォメーション

84 編集後記

社会全体が大きな変化の時代を迎えている中、「地方」が産業や科学技術の新しい芽を育てようといま動き出している。

地方が大都市圏に産業や科学技術のあらゆる面で互していくのは無理だ。しかし、それぞれの地方の特色を生かした「売り」、他にないきらめくものが必ず有る、あるいは作れるはずである。しかも、社会経済の在り方に新しい発想をもたらしリーディング・ケースとなり得るものを打ち出していけるのではないかと思う。

例えば、リサイクル技術。これは、秋田県に絶好の例がある。

秋田県は、銀・銅などの鉱山資源に恵まれていたが、国際競争の激化の中、鉱山はすべて平成六年までに閉山した。しかし、製錬所はいくつか残っており、また、秋田大学工学資源学部（平成九年度までは鉱山学部）や財団法人秋田県資源技術開発機構（県等の出資する第三セクター）において資源関連技術の研究の広範な展開、人材育成の豊富な実績がある。



秋田県副知事

板東久美子



これらの知的・物的資産を活用する新しい道として、近年、使用済みの家電製品や自動車部品などから金属を効率的に回収し、利用するリサイクル技術の研究開発が産学官の共同により行われている。この高い金属回収率を誇る技術を基に、「地下からではなく地上の資源から金属を製錬する」産業を育てる取組が、製錬所のある小坂町や大館市で進められている。また、これらの地域を含むさらに広範な東北の地域で、それぞれの地域の特色に合わせて様々な廃棄物を活用する技術・産業を、産学官一体で創っていく「県北部エコタウン構想」をこのたび県がまとめたところである。このエコタウン事業は、通産省・厚生省の補助により既に全国数箇所で行われているが、世界自然遺産の白神山地や十和田・八幡平国立公園のような類いまれな自然環境に抱かれた地域において、地域の特色を生かした資源循環型産業の創出を行う秋田県北部の構想は、その中でも特色あるもので

はないかと考えている。

このように、地方が特色ある新しい産業・技術を創っていくためには、知的創造の核である大学・研究機関の役割が重要である。これからの大学は、教育・研究のほかに、第三の機能として「社会に対するサービス」を意識する必要があるのではないかと思う。もちろん、大学は教育・研究を通じてもともと社会に貢献しているものであるが、より直接的に地域に対する貢献や国際貢献を行うこと、社会に対する教育研究の成果の還元を積

ばんどう・くみこ 昭和52年4月文部省入省。文部省学術国際局国際企画課教育文化交流室長、同生涯学習局婦人教育課長、文化庁文化部著作権課長等を経て、平成10年4月から現職。

極的に行うことが求められていると思う。特に地方の大学においては、地域社会の課題に対してどのような貢献をし得るかが大学の浮沈にも関わるといえるのではないだろうか。

新しい風を地方から吹かせるために、大学に対する期待は大きい。秋田県も平成一年新しい理工系の県立大学の開学を予定しているが、それを契機として、一層大きな風を起さなければと思っている。

# 地方から新風を

